

二十歳 可能性は無限大



祝う会で町民憲章を朗唱する出席者

山元自らの飛躍を誓う

山元町の「二十歳を祝う会」は、町つばめの杜ひだまりホールであった。対象者は104人のうち95人が集い、人生の節目に自らの飛躍を誓った。

出席者を代表し、ともに町在住で東北学院大2年の岡本雅也さん(20)と浜谷美音子さん(20)が登壇。「私たちを見守り支えてくれた方々への感謝を忘れず、誇りを胸にそれぞれが思い描く最高の人生へまい進する」と声をそろえた。

橋元伸一町長は、「常に向上心を持ち新しいことに挑むチャレンジ精神を持つてほしい。幼い頃、東日本大震災を経験した皆さんにはどんな困難をも乗り越え、勇猛果敢に進む力があるはずだ」とエールを送った。

中学校時代の恩師と再会したり、小中学校の卒業文集の内容からライズを出題したりするアトラクションがあり、出席者たちが懐かしい思い出話で盛り上がりがつた。



小中学校時代の懐かしいスライドが映写され、笑顔になる出席者たち

各地で式典

スーシや和服姿の若者が集まり、再会を喜び合つた。東日本大震災の被災自治体では、当時小学1年だった参加者らが地域社会に貢献する意志を表明した。



晴れやかな表情で式典会場に入る出席者

自覚と責任心刻む
亘理

亘理町は町中央公民館で、が集つた式では、専門学校「二十歳のつどい」を開いた。中学校区別に2部制で、2年佐藤謙士さん(20)が代表として「二十歳実施。対象者計371人が、のこぼ」を述べた。「大人としての自覚と責任を、生は一度きりです」と強調し、「失敗を恐れず、これまで支えてくれた方々の言葉を胸にこれから的人生を歩んでいきたい」と誓つた。山田周伸町長は式辞で、「社会には自分だけでコントロールできないこともたくさんあるが、自分自身を成長させたいと意欲を持った。式に先立ち、出席者全員で能登平島地震の犠牲者に黙とうをささげた。大型スクーリーに中学校の修学旅行で体験祭の写真を映すスライドショーもあり、懐かしいこまに会場が沸いた。



流されず生き抜き、しなやかに乗り越えていける力を自身に付けて」と祝辞述べた。

将来の目標を披露

<p>南三陸町の「二十歳の輝き式典」は、町総合体育馆であつた。対象者135人の中112人が参加し、小学1年で経験した東日本大震災の記憶を胸に新たな一步を刻んだ。</p> <p>佐藤に町長は式辞で能登半島で起きた地震に触れ、「東北福祉大2年の山口正泰さん(20)」「仙台市青葉区立小学校教員になる」という目標を披露。「サケのようにいすればこの町に戻り、川のよう命をつなぐことが目標だ」と力を込めた。</p> <p>参加した仙台市内の調理系専門学校2年及川千歳さんは(20)は「震災当時は支援</p>	<p>「当たり前」の生活がいかにき式典があつた。対象者135人のうち112人が参加し、「挑戦してほしい」とあいさつした。</p> <p>「東北福祉大2年の山口正泰さん(20)」「仙台市青葉区立小学校教員になる」という目標を披露。「サケのようにいすればこの町に戻り、川のよう命をつなぐことが目標だ」と力を込めた。</p> <p>参加した仙台市内の調理系専門学校2年及川千歳さんは(20)は「震災当時は支援</p>
--	---



二十歳の抱負を述べる山口さん

歩み振り返り笑顔
蔭王

長には家族や地域の人々が、これまでに支えられてきたことを忘れてはいけない」と述べた。

大河原消防署で勤務する同町の佐藤寛斗さん(20)は、誓いの言葉で、地元蔵王に貢献していく決意を語った。取材に、消防は人の命に関わる仕事。いつかは救助隊で活躍できるようになりたい」と力を込めた。

永野 平沢、宮、田中、遠刈田の地区ごとに小中学校時代の写真を映写する時間もあり、出席者は笑顔でそれぞれの歩みを振り返った。寒川委員会メンバーの同町の会社員小野空さん(20)は「自分のためよりも、人のためになることをしていく」と胸を張った。

乗り越えられる」と激励した。

久々の再会に喜び

率87・8%にとどまつてい
る消防団員の制度や待遇を充
てくべきである。